
つくばみらい市立小張小学校区における意見交換会

《 平成28年12月18日（日）午前10時30分～ 小張小学校体育館 》

1. あいさつ

2. これまでの経緯

3. 『つくばみらい市義務教育施設適正配置基本計画』について

4. 今後の進め方について

事務局： それでは、2. これまでの経緯、3. 『つくばみらい市義務教育施設適正配置基本計画』について、4. 今後の進め方について、を事務局よりご説明いたします。

《事務局より資料の説明》

5. 質疑・ご意見等

事務局： それでは、質問等がありましたらお願いします。

市民： 資料2（p5-6）に載っている、小規模校・大規模校のメリット・デメリットについては恐らく文科省の所から抜粋したと思われるが、小張小学校で当てはまる事、陽光台小学校と統合した場合に当てはまる事を教えて頂きたい。

事務局： 文科省の資料から抜粋した一般的に言われている内容だが、小張小学校や陽光台小学校の場合にも大部分当てはまると思う。大規模校のデメリットは、学校の工夫や努力で何とかなるものが多い。陽光台小学校でも、教職員の適切な配置により何とか克服してきた。小規模校のデメリットについても工夫してきたが、人数が多くなると解決できない事だけは、解決のしようがない。例えば、クラスの中でグループに分かれて、違う意見を交わす等。子ども達が一番学校の中で長く生活する「授業」が一番の問題。情報化の時代の中で、いろいろな人がいる事や、色々な考えがある事を、経験・体験をさせてあげたいという気持ちがある。

また、小中一貫の取組として、中学校区の単位で小学校と中学校が密に連携を図った教育を進めている。これは茨城県内でも早い段階で取り組んでおり、当市では3年前から進めている。この地区では、伊奈中学校、谷井田小学校、豊小学校、三島小学校、小張小学校という組み合わせで進めている。中学校の先生が小学校に来るなど、先生同士の交流や、子ども達も中学校の人と挨拶を交わすなどの交流をしている。

大規模校・小規模校どちらも努力をしていくというのが必要。

市民： ありがとうございます。そのような話だとしたら、ここに書いてあるデメリットについてお聞きしたい。小張小学校に関して、現在いる小学校の先生方の努力によって色々と解消されていて、今後考えられるデメリットとして“集団内の男女比に極端な偏りが生じる可能性がある”以外は小張小学校に関しては当てはまらないと思うのだが、いかがお考えか。

事務局： 保護者の方や先生方がどうお感じになっているか。何といても授業が一番だと考えている。子ども達が一番長く生活するのは授業時間であり、その授業時間にどう過ごすかが大切。この小学校の子ども達は、現在の陽光台小学校の子ども達が小張小学校にお世話になった、3、4年前の児童数400人の時代を経験している。人数が多い事のメリットは、子ども達が一番感じている、一番知っているかもしれない。

市民： 陽光台小学校の現状を、どれだけ把握されているか。どれだけ問題があがっているのかをご存知か。私は陽光台在住だが、あえて小張小学校を選んだ。自分の娘は現在5年生。近所の子供達、自分の子を含めて13人いるが、うちの子以外の12人が陽光台小学校へ通っている。自分の周りの親御さんや子ども達に限れば、皆「小張小学校に行けばよかった」と言っている。

少なくとも私が聞いている範囲では、(資料2 p7 参考3)統合によるメリット、「児童生徒への直接的な効果」の中での、「良い意味での競い合いが生まれた、向上心が高まった」については、受験をする賢い子たちが塾に通っている事を隠し、頭が悪いふりをしなければならぬのではないかと。「異年齢交流が増えた」については、既に小張小学校は異年齢交流をしているし、逆に陽光台小学校では、異年齢交流によるいじめを受けた子も知っている。「切磋琢磨する環境の中で学習や学習意欲が向上した」については、スクールヒエラルキーが激しくなり、きちんとした子は目立たないようにして、競争心の高い、目立ちたい子に道を開けているような現状がある。実際にお母さん方からも聞いているのだが、この3つの件についてどうお考えか。

陽光台小学校に通わせている保護者の中でも、学校の中での問題について関心があるお母さんは積極的に学校へ話を聞きに行き相談しているが、大半の保護者は授業参観にしても興味がないと感じる。以前、授業参観に来ていたお母さんが2人だった時もあるようだ。一方、小張小学校のお母さん方は授業参観でも、時間がない中でも時間を作って懇談会まで参加している。陽光台小学校の現状について、ここに書いてある事と差がありすぎる。一体情報をどのように管理しているのか。情報がどのように止められ、入ってきているのか。情報はきちんと精査されているのか、簡潔にお答えを頂きたい。

事務局： 簡潔にお答えするのはなかなか難しい。学校は地域の方や先生方、皆で作りに上げるものと思っている。子ども達があの学校で良かったというのは、将来、子ども達の心が決める事。陽光台小学校と小張小学校の比較はしない。陽光台小学校も立ち上げ当初は、本当に大丈夫なのかと言われ、開校した後も色々な問題があったが、陽光台小学校もまだ開校して2年。1,000人単位のあれだけの大きな学校で不登校は0人だ。

市民： 私が知り合いの子は不登校だ。情報が入ってきていない事、または情報を見ないでデータだけの発言はしないでほしい。

事務局： 学校からは、一つ一つ報告を受けている。

市民： では、先生が授業中に泣き出したり、先生が音楽の授業の間に。

事務局： そのような話し合いはしたくない。これから小張小学校をどうしていくのか、という話し合いではないか。

市民： では、違う観点から話しをさせて頂くと、私は、市民税の確保の点から小張小学校を潰す

べきではないと思っている。私は、つくばみらい市に住んで10年だが、都内に通勤できる所であれば県内のどこでもよかった。つくば市というと学研都市とも言われており、教育のレベルも高い。守谷市も住みやすい街と聞いていたが、つくばみらい市を選んだ一番の理由は土地が安かったから。今、同じように陽光台に住んでいる方たちも、つくばみらい市に魅力があるからではなく、安いという理由だけで引っ越してきている人が多いのではないかと。もし将来、市が財政破綻した時に、まず一番初めにつくばみらい市から出ていくのは、地縁のない人と思っている。地縁のない人たちの為に建物をどんどん建てていき、昔からあるものを潰していく考えはどうか。

もう一点については、教育の観点からしたら違うのかもしれないが、現在中学校二年の息子が小張小学校に通っていた当時は1学年60人だったが、近隣の学校から比べると小規模校だった。小規模校の良い点として感じたのは、当時の校長先生や他の学年の先生が名前を憶えてくれているという事。私自身は1970年代生まれで、大規模校で育った。学校の中で、校長先生や学年が違う先生方が自分の名前を知っている事は安心できる要素に思う。学校の良さも去る事ながら、伝統である綱火があるのが良いと思っている。綱火の歴史は、松下岩見守重綱という城主がその伝統として作ったもので、その一つに子ども綱火というのがあるが、地域の伝統に子どもの頃から触れる事でアイデンティティーが確立していくと思う。地域に貢献したい気持ちを育むのではないかと。陽光台に新しくできた学校や育児施設、何でもあるかもしれないが、そこに伝統はあるのか。自分が帰省した時に貢献したいと思えるものはあるのか。新しく来る人たちは、例えば、埼玉だつてつくばだつて守谷だつてかまわない、ここでなくてもいいではないか。でも、小張小学校には伝統がある。新しいものだったらいくらでも建てる事はできるが、伝統は造れない。ちなみに今、私立の中学校に通っている息子は、自分の地域について説明する授業があった時は必ず、自分の住んでいる地域や自分の出身校の歴史について話すようだ。今年は、オーストラリアの留学生の前で発表する機会があった。海外から見た時、自分の育った地域について、どれだけの伝統があって、どれだけ素晴らしいものを受け継いでいくのかという事に対して評価されるのではないかと。

児童数が少なくなったからという理由で小張小学校をなくし、陽光台小学校のような人数が多い所、またはやりやすい所へ行かせようというのは、教育の怠慢じゃないか。スクールバスも用意するのなら、学区制を撤廃し、学生が行きたい学校を選択して通えるようにしないと、どこにでもあるただの田舎の学校になってしまう。ここにしかないものを残していくからこそ評価もされるのでしょ。人間形成において必要なのではないかと。それを分かった上で、あえて小張小学校を潰して新しく大きな学校へ行き、そこで伝統として綱火をやればいいと思っているのであれば、非常に短絡的な考えだと思う。

事務局： 小張小学校の綱火を中心に、伝統を継承するのは、素晴らしい事。陽光台小学校は、まだ2年しか経っておらず、伝統もない。みらい平に住んでいる、陽光台小学校に通っている子たちや親御さんはどうしたらいいのか。今も自分たちの伝統を作ろうと頑張っている。

市民： 今ある伝統を守っていくことも伝統だ。

事務局： 今まで小学校の先生や地域の方たちが一生懸命この学校を愛し、頑張って守って頂いてい

る話だと思っている。先ほど住民の方の質問であった、最近のみらい平に住む人たちが他の地域に比べて土地が安い理由から移り住んできているという話については色々な考えがあると思うが、基本的には公式の場での発言は控えてほしい。そのような部分があった方も自然環境が良い点に魅かれて引っ越してくる人が多いと考えている。統廃合するにあたって、子ども達を中心に考えた時、どのような状況がいいのか、このままでいいのかを、地域の人たちやこれから保護者になる人たち皆で考えていきたい。正解というのではないものと思っているが、それに近いものを皆で考えたい。

昨年度、つくばみらい市義務教育施設適正配置基本計画を策定し、今年から統合についてきちんと話し合っていこうという事になっている。複式学級が進んでいる東小を最優先に考えて、この小張小学校はもう少し時間をかけて皆と考えていきたい。子ども達の環境をどうしていくのか、それぞれに考えて頂けるとありがたい。資料2の6ページにメリット・デメリットが書いてあるが、小規模化のメリット・デメリットのほとんどが当てはまると思う。

市 民： 資料2, p6 のデメリットの項目について。小張小学校に関しては、「生活面の集団内の男女比に極端な偏りが生じる」という可能性はあると思われるが、それ以外の所で「切磋琢磨する機会が少なくなる」という点については今のままでも十分に異学年交流でできているので、そこで切磋琢磨できる。「授業で多様な意見に触れる機会」は子ども同士では難しいかもしれないが、先生の努力によって色々な授業をしてもらって多様な意見に触れられている。また、2学年で交流している事によって、授業以外でも多様な意見に触れる機会がある。そのような面で見るとデメリットというのは、小張小学校においては先生の努力によって、現状ほとんどないと思う。今年、小張小学校存続の署名活動により2,700名を越える署名を頂いた。それが小張地区、皆の意見と思ってもらってよい。小張小学校を残してもらいたいという人がたくさんいる。また、先生方の努力によって小張小学校の中では小規模化によるデメリットというのは少ない。

資料はないが、小張小学校に来年度も20人以上入学する予定になっており、小張地区としては毎年20人以上入ってくる可能性があると言える。20人以上いる学級は単学級であっても、学校の適正規模として認めてもらえると定められていると思う。今回、平成34年度統合予定となると、統合するなら最初から陽光台小学校でもいいと思って向こうを選んでしまう人もいるかもしれない。一度、統合を白紙に戻して頂きたい。今後も20人以上の入学予定者がいるはずなので、場所的には小張小に近いみらい平の人たちも小張小学校へ来やすくなるように、一度白紙にして様子を見てみてはどうか。

事 務 局： この計画については審議委員会で議論されている事であり、こういう形の方がいいだろうという事になった。それを市が尊重して、皆の意見を伺いながら考えている。今後、人口推計についても毎年のように変化している。今後は、具体的には平成31年頃から、このような場面をたくさん作って話し合っていきたい。皆で一生涯懸命考えていかないといけない。始めから反対・賛成ではなく、皆さんと話し合っていきたい。

市 民： 最初から反対をしているわけではない。来年度入ってくる方の中でも、陽光台小学校と小張小学校のどちらでも選べる状態であっても、小張小学校を選んで通いたいと思っている人が何人かいる。今後もそのような方が増えてくるだろう。入学予定者が20人以上いるわけ

なので、統廃合の対象に含まれないと思う。

初めから統廃合ありきの話になると、就学中の学校の移動を考えて、初めから陽光台小学校を選ぶ人がいると思うので、一度白紙にして、様子を見た方がいいのではないかと思っ
ている。小規模校から1,000人を超える人数の中に入って一緒になる事は、皆、不安だと思う。
昨年のデータから比較して見ても統合予定の年も、200人くらいの児童数が見込まれる。統
合予定の年でも1,000人を超えるような人数の中に60人で過ごしていた子たちが入ってい
く事に対して保護者も不安を感じているが、どうか。

事務局： もちろん不安はあると思う。他の学校でも、300人、400人。それが小張小学校は1,000
人いるような小学校と統合ともなれば、少人数で過ごしてきた統合小の子ども達が入ってい
く事は、保護者も不安でいっぱいだと思う。その不安を解消していく事が重要だと考えてい
る。例えば、運動会を一緒にやってみる等、小張小学校と陽光台小学校の交流活動を盛んに
していき、子ども達が少しずつ慣れていくような場を増やして、少しずつでも不安を解消し
ていく事を、今後は考えていかなければならないと思う。

事務局： 小張小学校の統廃合を白紙に戻す話について、この計画も審議会の答申を受けての事であ
りる。小張小学校も人数が予定外に増えたり減ったりの繰り返しがあろう。また、陽光
台小学校の方から小張小学校に子ども達が来るといような事も。推移の話も、1年1年大
きく変化しているので、今年生まれた子どもが入学する年度の事なので、その間に大きな変
化があるだろうし、今後について予想がつかないのは、他の学校にも当てはまる事。一応、
データ化してこのような計画を立てたが、小張小学校の将来像も不確かである。これからの
小張小学校をどんな学校にしていくかを考えたい。私にとっては、つくばみらい市の子ども
どもたちは、どこの学校にしようとも私にとって、皆同じ子ども達。皆に同じ教育や経験を
させてあげたいし、小学校で過ごした事を振り返る事ができるような学校にしたい。今、小
張小学校に通う子ども達が、卒業生になり同窓会をした時に、綱火の話で盛り上がるかもし
れない。どこかで陽光台小学校の子たちも接点があって、陽光台小学校に対して振り返る事
もあるかもしれない。だが、大切なのは今。人数が多い事で経験できる事がたくさんあるの
で、今、本当にこのままでよいのか。まだ十分時間があるので、これから小学校や先生を交
えて1つ1つ考えていきたい。

市民： 我が子は、平成29年度4月に小学校へ入学予定。陽光台小学校と小張小学校が距離的に
同じなので、選択制を、という事で手紙を頂いた。もちろん小張小学校を選択させて頂いた。
平成34年となると、下の子どもが4年生もしくは5年生で陽光台小学校に統合になると考
えられる。予定ではなく確定事項になると小張小学校から陽光台小学校に転校する事にな
る。小学校4年生、5年生になると非常に多感な時期である。その時に陽光台小学校と交流
をしていき、受け入れてもらえるようにするという事だとは思いますが、陽光台小学校も人数が
多い中、交流というのは難しいと考えている。小張小学校が廃校になり、陽光台小学校や他
の小学校へ入った後はどのようなケアをして頂けるのか。例えば、小張小学校の子どもを同
じクラスにしてもらえるのか。他にも色々と考えがあるとは思いますが、保護者としてはそこが
一番心配であり不安。一度、学校に入ってしまうとこちらから子どもの様子を見る事もでき
ないし、先生と子どもの話だけでは分からない所もある。統合を前向きに考えていこうとい

う話も理解できるが、実際、子どもが大きくなっていった、そのような風になっていくのか、また本当に小張小学校がなくなってしまうのかどうか、どのようにしていくのか。今までの参考例でも構わないので、お考えをうかがいたい。

事務局： 迎え入れる側と統合される側が互いの学校を紹介し、学校の事を調べ、互いの事を知り、統合した時に心配なく進められるように様々な取組をしている。例えば、阿見小学校では、50人の小学校が500人の小学校に統合する事になったが、これまでの歴史を振り返られるように「思い出を振り返るミュージアム化」の部屋を地域の方と作って振り返ったり、統合する小学校双方が、できる範囲で色々な行事を一緒にやっていた。違和感なく開校できるように迎え入れる準備や、統合の受け入れ準備、双方が一生懸命していた。ただし、今回は他の地区とは全然違う。みらい平という新しい町に出来た学校と一緒にするという点は全然違う。行方市は麻生町・北浦町・玉造町が一緒になった市。全18校が4校になった。朝は校庭に大きなバスが並んでいる。みらい平では1,000人規模の学校が2つできるという事になり、これに小張小学校が入る。他の市町村との状況とは違うので、一つ一つ考えていきたい。

市民： 小張小学校の廃校が決まっているのであれば、できるだけ早い時期から保護者が交流する場を作ってほしい。保護者の意見としてではなく、地域からの意見と思ってほしい。昨年、引っ越してきたばかりで、わからない事だらけ。小張小学校がなくなるという噂ばかりで不安なので、噂ではなく確実なものを広報誌や市のホームページで載せてもらうという約束を、貴重な場所を使って強くお伝えしたかった。検討頂ければと思っているので、よろしくお願ひいたします。

事務局： この統廃合の件や、また、子ども達をどういう環境に置いた方がいいのか、何が一番いいのかを含めて答えを出してほしい。もちろん我々も、この地区の統合の状況をホームページや学校だより学年だよりで発信していきたいので、気にかけて見ていてほしい。また、困った時には、皆さんの方からも学校の先生たちに相談して頂きたいと思う。

市民： 事務局の方に、何点かお聞きしたい。小張小学校が小規模校の範疇に入ったのはどうしてか。この件はできれば今日お返事を頂きたい。

二点目は最初、冒頭の保護者の方からの意見であったように、この資料の出典は何なのかという事。もう一点は小張地区のメリットやデメリットを事務局や教育委員会で検討してもらいたい。それを基に皆で考えましょう。どうしても保護者と教育委員会は対立構造になっている。どの世界でもメリット・デメリットはある。

もう一点は、将来の事はわからないが、平成34年、小張小学校から陽光台小学校へ移った時、約1,200名になる。結局、陽光台小学校でプレハブ対応になるのではないかと危惧されるが、どのようにお考えか。

まだ平成34年まで時間があるので、各区長さんも巻き込んで伝統ある小張地区全体で、小張小学校の今後を考えたい。

事務局： 「小規模校」の定義は、11学級以下の学校であります。

市民： 何故、小張小学校の人数が少なくなり、単学級になって、小規模校になったのかをお答え頂きたい。皆さんは、そう思わないか。何故、小張小学校が単学級になったのか。何故、小

規模校になったのか。何が言いたいかという、平成25、26年頃には小張小学校へ通学していた地区の人たちを、陽光台小学校へ行けるようにしたかという事を、教育委員会の人にお聞きしたい。

事務局： 陽光台小学校について、区画整理事業の中で、小学校2校、中学校1校という計画がある。

市民： いずれにせよ平行線だ。高波地区はかつて小張小学校の校区。我々が口を挟むような事ではないかもしれないが、審議会がどういう話をしているのか、皆さんは気にならないか。通り一遍の話だと思う。人数が少なくて単学級になったから進めているだけではないか。

各方面の教育以外、保険健康増進についても必ず審議会を作っており、私自身も参加したことがある。住民と審議会、そこに市役所の市長と職員が入る。必ずワンクッション置く。こういう経過を通して皆さん話しているが、ここの審議会は何をやっているのか。どの程度皆の意見が取り入れられているのだろうか。

事務局： 高波地区については、陽光台小学校開校前は、バスを利用して小張小学校に通っていた。陽光台小学校のすぐ東側が高波地区なので、近距離の特例として本人の申し出があれば認めるという事になった。基本的に高波地区は小張小学校区です。

審議会についてのメンバーですが、各学校のPTA、一般公募の代表、学校関係者、議会関係者に入ってもらい、統廃合について審議をいただいた。小張小学校は陽光台小学校と一緒にあって新しい学校にしていけるよう、皆さんにも考えていただきたい。

6. 閉会

事務局： 本日は貴重なご意見をありがとうございました。以上をもちまして意見交換会を終了させていただきます。ありがとうございました。

以上